

「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部3年 谷 大空

そもそも私が今回の香港の短期留学プログラムに応募した理由が、中華圏の文化に特別興味があったり中国語のスキルを向上させたいというよりは、ただ単に海外に行きたいのが本音だった。この海外に行きたいというのは、2つの目的がある。

1 つ目は、在学中に一度は留学に行っておきたいということ。大学生の間しかある程度の長さ海外に行くのは難しいし、大学に入る前からなんとなく留学をしたいという気持ちはあった。結局 1,2 回生の時にはやらずに 3 回生になってしまったが、3 回後期からは卒業研究や研究室の活動があってより行くハードルが高くなることを考えると、ここでいかないとそのまま行かないまま社会人になって後で後悔するだろうなと思った。これが一つ目の理由。

2 つ目は、海外に行ったら自分の思考の材料(≒視野)が広がるだろうなということ。こちらは、3 回生になってから生じた留学への動機だ。私は大学入学～3 回生開始ぐらいまで、予めゴールを決めてそれに向かうという生き方しかあまり知らなかった。受験に必要なだから勉強をする、志望分野の研究をするのに必要だからそれに関連する授業を受ける、将来就活とか仕事で役立つから機械学習やら統計やらを勉強する...こういう感じで、要は、視野が狭い生き方ばかりをしていたということ。ただ、そういう生き方はいざ向かうべき方向を変えざるを得なくなった時に弱い。実際、徐々に行き詰まっていた、7 月末までに研究室の配属を決めないといけないもののその配属の選択をどうするか決めかねて色々な人に相談していた。そこである教授に言われたのが、「総人に来る意義は、始めにゴールがあってそこに向かうというよりも、むしろ色々なものに出会うことでゴールそのものが更新されるということにある。そしてゴールが更新されることで元あったゴールよりもいい結果になる」ということだ。私は今まで、ゴールに向かうためのスキルばかりに注目していたが、実際のところは、むしろゴールを見極めるためのスキルの方が今の自分には必要である。そして、要はこれが「視野を広げる」ということだ。そして、その教授は、「海外に行った方がいい」と言っていた。多分この言葉が応募する決め手になったんだと思う。まとめると、海外に行けば思考の材料がたくさん手に入る。その手に入れた思考の材料すなわち視野の広さによって、自分は今後の人生でよりよい選択ができるようになるし人生は豊かになる。これが二つ目の理由だ。志望動機書には色々書いていたものの、この二つ目の理由というのが香港留学に来た最大の目的と言って良い。そのため、香港では、できるだけ普段自分がやらない・やろうと思わないことをやるということを意識したし、自分の世界が広がるのが最大のモチベーションだった。

前置きはこのぐらいにして、ここからは具体的に香港での経験について色々書いていこうと思う。

まず、僕にとって海外で暮らすのは始めてで、来て楽しいと同時に色々面食らうこともあった。初めの 1 週間ぐらいは、ネットが上手く使えなかったり、食べ物の量が多い上に脂っこくて重い食事が多くて苦戦したりした。一方、ネットが上手く使えないというトラブルがあったことで、今まで地下鉄の路線図が読めなかったのだがそれが読めるようになったし、食事についても頼む量を日本よりかなり減らしめにしてみるなど、色々と生活の中で自分の行動を工夫するきっかけになった。また、外食する時など現地の人に何か伝えたい時、英語が通じるならまだしも英語が通じない場合も多く、その場合はメニューを指差ししたり、普通話の中国語はダメか試したり、それでもダメならグーグル翻訳を使わざるを得なかった。今まで何とか英語で耐えていたのでグーグル翻訳を使った時は何かに敗北した気がした。ともかく意思疎通は日本に比べて困難なことが多いので、その分あらゆる手段で伝える努力をせねばならず、その点で人と接する時の思い切りみたいなものは良くなったと思う。

このような経験はあったものの、香港は治安が良く、日本と同じ東洋の文化圏なこともあってか、1 週間ぐらい住むと慣れてきて、数ヶ月ぐらいは全然住めそうだという気分になった。ただ、留学して初めの数週間は生活が

楽しいハネムーン期であるという話も聞いたことがあるので、実際に住んだらまた話は違うのかもしれない。

香港では中国語の授業を受けたり、空き時間を使って色々なところに行ったのでそのことについても書いていこうと思う。

まず、授業について、私にとって特に印象的だったエピソードやそれに対して思ったことについて書いていく。授業ではグループワーク(ペアワーク)があったのだが、外国の方と一緒に中国語を練習する流れになった。そこで練習中にお互いのことを話していて自分の知らない人の事情が色々知れて楽しかった。一方、中国語だけで伝えたいことを全て伝えることはできないので英語も使うことになった。しかし、いざ英語で喋ろうとすると、思ったより自分の言いたいことを伝える単語が出なかったりして中々苦勞した。特にそのペアの人とは自分としてはもっと色々話したかったという思いもあり、留学中に書いた日記にはこんな風には書いていた。「今、英語モチベが爆上がりしてる。だって、意思疎通に使うのは結局英語だから、英語を使えないと困る。表現したいけどできなくて悔しい経験がたくさんある。英語使えたらもっと深い話ができるのに。人を知れるのに。」このように、香港に来て中国語の授業を受けたが、実際に学習モチベーションが上がったのは英語だった。中国語については、授業を受けて前よりも中国語が話せるようになったものの、実のところ、とりあえず HSK4 級を受けてみるぐらいのビジョンしか無く、その後勉強し続けられるか怪しい。やはり、英語がまだ十分でないからまずそっちをすべきだという発想もあるだろうし、中国語が使えることのメリットよりも必要な時間という負担の要素が自分の中で上回っているのだと思う。ただ、もし今後例えば中国に年単位で留学するとなれば話は変わってくるのではないかと感じる。

今は日本に帰ってきて、英語を話さなくても人と問題なくコミュニケーションが取れてしまうので、香港に居たときよりは正直言うと英語のモチベーションも下がっている。それでも英語を話せたらより多くの人間と深い話をしたり仲良くなれるという思いはまだあって、今後院試などで英語を勉強する際も以前よりは勉強に対する目的意識を持てそうだと感じる。

今の時点では京大で修士まで行く予定であることを考慮すると、まだ京大に3年半は最低でも居るので、京大の中の英語・日本語会話クラブとか利用して色々話したりして海外の友達を作りたいと感じた。京大の中でやるなら香港留学という短い期間で人と仲良くなろうとするより時間的にも余裕があつて一対一のコミュニケーションに持ち込むことも容易だろう。

次に、香港での課外活動について書いていく。

香港に来た以上、単に中国語を学ぶという日本でも出来ることよりも香港に来る、海外に来ることでその環境でしかできない体験をするということに私は当初から重きを置いていた。もちろん、旅行したい・旅行が楽しいというのもその中に含まれているが、単に旅行に行つて楽しただけで終わらせたくはないというのはあった。実際、香港で色々な体験をして自分の興味はかなり広がったはずだ。

留学中に特に意識したのは、自分がもともとそこまで興味ないことも敢えてやるということだ。この背景として、詳しい説明は省くが、「超一流は好きな人嫌いな人自分とは関係ない人全てから学ぶ」という言葉があったり、「見たくないものを自分は見たい」という言葉を留学中に友達から聞いたことが効いている(この言葉について、見たいと思っているものは自分の発想の中にあるものにすぎない。自分の発想の外にあるものを自分のものにしようとする、見たくないもの＝自分がまだ楽しさをわかっていないもの・重要性を認識していないものを見る必要がある という意味だと自分は理解している)。

実際、興味の中にあるものをやってよかったものも多いが、興味の外にあるものを色々やってみたりそもそも偶然の出会いで自分の世界が広がったと感じるものも多い。

例えば、留学中に仲良くなった友達に誘われて香港の M+ という美術館に行ったのだが、自分の思った数十倍も楽しかった。私も一緒に行った友達も作品をじっくり見るタイプだったのもあって、作品をサラッとみるのではなく、この作品は何を表したいのか、説明を読みつつ観察と言語化を繰り返してお互いの解釈を言い合ったり

しながら深く鑑賞していた。すると、かなりの割合の作品について、何を表したいのか、どういうところがその作品の美しさ・魅力なのかについて自分たちなりに理解することができた。私は今まで美術館に行ったことがなく、美術・芸術の良さを私がすぐに理解するのは困難だろうとばかり思っていたので、ここまで深く味わうことができて正直びっくりした。あまりに感動が多いものだから、最後のお別れパーティーの前半を切ってまで M+ にもう一度行ったりしたものだ。

他にも、今まで異性に関わる機会が少なかったが今回の留学を通して異性とのコミュニケーションの取り方が自分なりに少し分かった（つもりではいる）、人生初のプリクラ、日本ではあまりやらないスイーツ店巡り、香港という日本と全然違う植生を持つ地域だからこそその風景に対する感動（町や公園をあるだけでも楽しい）、新しい人と会う楽しさ、・・・など、色々新たな体験だったと感じる。

この中には、香港に来たこと自体の価値もあるが、むしろ香港や海外そこまで関係なく単に留学して宿舎で普段関わらない人と関わる(日本人でもよい)ということによって得られたものも色々あったと思う。

そして香港でもこのような発見があったのだから、日本でも同じように例えば寺社巡りをちゃんと背景知識を知ったうえでやってみたり美術館に行ってみたりしたくなった。というか後者に関してはこれを書いている時点で既に実行している。実際、帰ってきてから、明らかに色々なことに興味を持つようになっていく。今までは通りすぎるだけだった、時計台の中にある京大の歴史の展示をじっくり見てみたり。ボランティア系のサークルの宣伝ポスターをみて、今まで興味すらもってこなかったからとりあえず連絡してインタビュー&活動体験させてもらえないか頼んでみるなど。

留学前から、自分の視野が狭いことにより、人生の選択レベルで損してることに気づいていた。だから、実際に留学をし、色々な体験をした。「見たくないものを見てみたい」。これを留学中のテーマにした。そしてそもそも興味があった/なかったにかかわらず色々やってみた。その姿勢が京都に帰ってきた今も残っている。

ここで色々挑戦する姿勢が残っていると書いたものの、日本に帰ってきて、その姿勢が徐々に失われているようにも思える。ただ、これは当たり前で、香港に居る間はひたすら自分がたくさんの経験をするのが目的だから色々やる姿勢を持つのは当然だし、今という瞬間に集中できる。そもそも言ってみればずっと旅行中みたいなものである。このような状態だから楽しいのは当然。一方、日本に帰ってきて日常生活に戻ると、やる必要のあるタスクが沢山発生するので、何の工夫もないと一つのことに集中することは困難だ。目の前にやるのがたくさんあると探索もできなくなる。ストレスも感じる。だから、やるのがたくさんある中でいかにうまくそれら进行处理できるかというのは今に始まったことではない永遠の課題だし、逆にそれらのタスクは多くは自分のためにあるのだから、うまく付き合う方法を見つけるのは生涯学習だ。この辺りは留学とそこまで関係ないので書くのはこのぐらいにしておく。とはいえ、日常を、残りの大学生活をどう過ごすか、ひいては人生をどう過ごすかというのが本当は最も重要な部分だ。

締めとして、今後私はどうして行きたいかについて、まだあまり整理できているとはいえないがまとめていこうと思う。

香港から帰ってきたときや、その直後に留学の振り返り会をして先生から交換留学のプランを紹介された時は、かなり乗り気だった。そもそも交換留学については紹介されるまではまず具体的にどういうことをするのか、どういう人が行くべきなのかについてあまり知らなかったし、現時点でもまだ情報を集められていない。私は海外に行ってまで勉強したい分野があると言われるそうではないが、外国で年単位で過ごせば自分と違う見方をする色々な人に出会ったり違う国の様子を肌で感じられて視野が広がるという話は魅力的に映った。一方、日本にいないと出来ないこともあるし、そもそも海外の大学に行くとなると色々準備も必要になる。結局、最終的にそれは自分にとって必要かが最も大事で、それは今そう簡単に判断できない。

みんな、自分が価値をおいていることについては、良いと言う。友達にもこの海外留学プランについて、良いじゃんと言われた。ただ、それと私の価値・ビジョンは別だ。自分を持って、合理的に決めていくのが重要では

ある。一方で、自分の思考が狭いこともあるから他の人の言うことをちゃんと理解しようとしたり相談するのもまた大事だ。そういうのを色々踏まえて、私のビジョンを書き出して、人に相談して、また修正してまとめて・・・というのを繰り返して、それで決めていく。3回前期、研究室決めに迷った時はこういう感じでやってみて、最終的には今の研究室の教授に相談したときに大きな思い違いがあることが判明して、それであっけなく解決した。交換留学をするなら、今回もまた似たようなことをやることになるかもしれない。その時はもっと整理を雑にやって相談→整理のサイクルを増やしていくつもりだ。

交換留学は流石に話のスケールが大きすぎるが、まだ学部生の間に留学に行く余裕はあるはずなので、また半年後に例えば今度はカナダ辺りに短期留学するのはアリだと感じている。

私は文章を書いたり自分の考えをまとめるのが好きで、特に留学中に体験や学んだことをまとめる日記をたくさん書いていたのもあってか、報告の文章もとても長くなってしまった。自分がこれからやるべきことは、とりあえず目の前にあるタスクを消化して余裕を作ることと、読書・バイト・研究室の活動等の日本でもできる自分の視野を広げをすること。そして、情報集めをすることである。ここからはもうひたすらやっていくだけなので、振り返りはこのぐらいにして、さっさと実践に戻ろうと思う。

最後に、今回の留学の機会をつくっていただいた京都大学および中文大学の教員の方々、留学中に自分の世界を広げるきっかけを作ってくれたり色々と助けてもらった留学生および現地の学生の方々、その他留学に関わってくれたすべての方に感謝を述べて報告を終わります。ありがとうございました！今回の留学に行って本当に良かったと思っています。